

＜今日の説教のポイント 創世記 49 章 29 節～50 章 14 節＞
異教の国でヨセフが行った葬儀から、今の私たちの葬儀を考える。

①ヤコブはなぜ埋葬場所にこだわったのか？

ヤコブは自分の埋葬場所についてこだわりました(47:29-30, 49:29-32)。その理由は、神様が与えると約束して下さったカナンに父祖たちも葬られた墓があるからでした。現代でも、「先祖が眠っている故郷の墓に自分も入りたい」と思う人はいるでしょう。それと似ているかもしれませんが、ヤコブの場合は、神様が与えると約束して下さった地、すなわち、神様にこだわっている点が違うのです。

②ヨセフはエジプトのやり方に沿ってやり過ぎ？

しかし、ヨセフは最終的にはヤコブのその願いを叶えましたが、それまでにしたこと、防腐処置(2)、長い喪の期間(3)、盛大なエジプト式追悼式(10-11)はエジプトに気を使い過ぎているのではないのでしょうか？神様はそれをよしとされるのでしょうか？しかし、聖書は、ヨセフがエジプトの習わしに従って行ったが故に、その後申し出た「父が願っていた地に葬りたい」というヨセフの申し出をファラオが快く受け容れてくれたのだと記しているようにも思えます。異教の国の王に仕えて生きて行かねばならなかったヨセフの状況を思うと、今の私たちがそう簡単に、「彼は間違っている」とは言えないでしょう。

③何にこだわるかが問題！ 神を重んじつつ、人をその神に導くことに

一方、新約聖書には葬儀や墓についての記事はほとんど出て来ません。イエス・キリストは復活されてその墓は空っぽになり、死の先に神様が用意して下さった永遠の命に目を注ぐようになったからです。ですから、墓や埋葬はキリスト者にとってはアディアフォラ（どちらでもいい）、つまり「これでないといけない」といった問題ではなくなったのです。だとすると、ヨセフはエジプトに迎合したというよりは、困難な状況の中でも信仰の知恵を使って、どうやったら真の神を思う父の願いを叶えることができるかに取り組んだといえるのではないのでしょうか。イエス・キリストは徴税人や遊女と食事を共になさいました。彼らそのまま受け入れる中で神の愛を示し、彼ら自らが真の神に向いて生きる者となるためでした。私たちも、信仰の知恵を用い、周りの人を真の神に導けるような葬儀をあげることを大事に考えていきたいと思えます。